

原告谷田部裕子本人尋問

甲F第132、133号証

透明汚染の恐怖

東海村の臨界事故

村民、避難

原電職員

安全性への不安がまたも現実となった。東海村のランニングになった。目に見えない放射線による被曝の恐怖。県や村は民らは情報がなかなか伝わらないことになっているから、不安

避難要請は事故

「子供に影響は」「しっか 少ない情報、

東海村役場にジェー・シー・オーから事故の一報が入ったのは、発生から一時間後の午前十一時三十四分。「作業員が被曝し、病院に運ばれた。臨界事故の可能性あり」などと書かれたファクスが一枚、送られてきた。

■東海村役場

村上達也村長は不在で助役や総務部長らが協し、正午に災害対策連絡議会を設置した。午後零十五分には村職員の約三の一に当たる約百五十人災害対策本部を設置した午後零時半、防災無線

保護者
東海村



甲F第134号証

子の危機、親の責任

原子力、改めて

「『ナージャの村』 自 た村に住み続ける家族のド
主上映会の呼びかけ」 キュメンタリー。メモは ど

隣接する那珂町の主婦谷 二、三人の仲間には見せた
田部裕子さん(四三)は、手書 が、実現はしなかった。 たの

きのメモを取り出した。 「今度こそ上映会を開こ か」

東海村の旧動燃で火災、 ろ」。そう誓ったのは九月 ある

爆発事故があった一年後の 三十日夕、玄関でずぶぬれ 知る

一九九八年に書いた。旧ソ になった中学二年生の娘の なか

連のチェルノブイリ原発事 姿を見たときだった。 十

故で、立ち入り禁止になっ 自宅は事故現場から約二 た臨

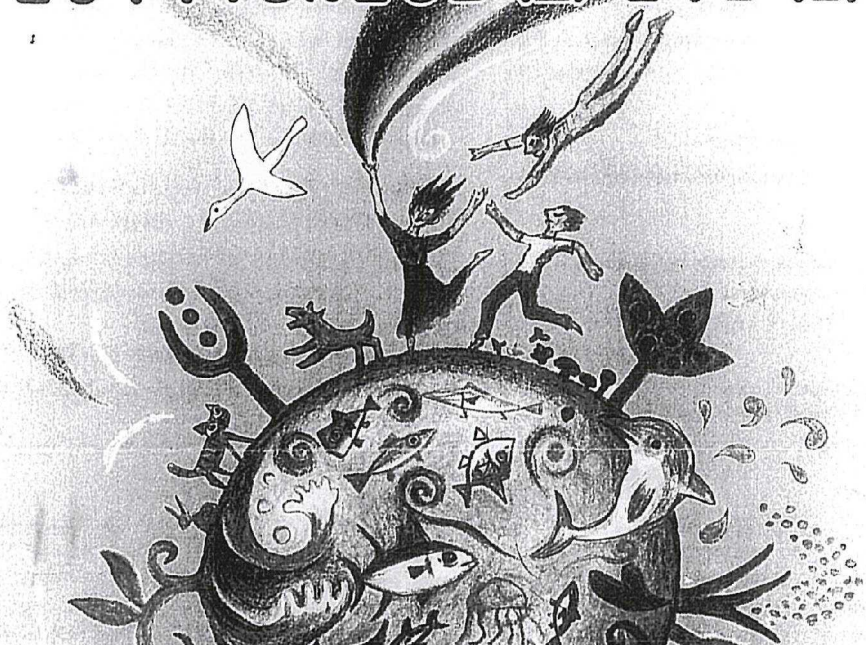
甲F第135号証

甲F第135号証

ハイロアクション福島原発40年オープニングイベント

ふくしま原発40年と わたしたちの未来

2011年3月26日(土) 27日(日)





甲F第136号証3枚目



甲F第●号証写真①





大地が揺れ、裂け、崩

茨城県は東北で震度6強、その他の
広い地域で6弱が観測された。道路は
大きく裂け、住宅は傾きつぶれ、ビル
のガラスが割れ、外壁もはがれ落ちた。
大谷石の塀は路上に崩れ落ち、墓地で

の乗用車が押しつぶされた
でにざわついていた偕楽園も
り、好文亭は土壁が落ちた。
鹿島神宮のコンクリート製
壊。各地の重要文化財も、

甲F第138号証
2枚目右の写真



甲F第138号証
3枚目右頁下段
右から2番目の
写真



土砂崩れで通行止めとなった奥久慈パノラマライン= 4月22日、大子町傾藤

甲F第138号証
4枚目左頁上段
1番左の写真

甲F第138号証4枚目左頁下段の写真



甲F第138号証4枚目右頁下段の写真



甲F第138号証6枚目左頁の写真



甲F第138号証7枚目左頁の下の写真

